

秋の土づくり運動について

～ いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！ ～

富山県米作改良対策本部

1 趣旨

県内水田では有効態ケイ酸や交換性加里が不足し、地力が低下しているほ場がかなり多い(表)。さらに、近年は登熟期間の異常高温により、水稻、大豆及び大麦の収量・品質が低下している。

このため、高温等の気象変動に打ち勝ち、水稻・大豆・大麦の高品質・安定生産に向けて、“いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！”をスローガンとして、県下全域で「秋の土づくり運動」に取り組む。

2 運動期間 令和8年9月15日～11月15日

目標を達成しているほ場が少ない
⇒ 土壤改良資材の施用が必要

3 推進事項

(1) 土壤改良資材の施用

土壤改良資材の施用により、ケイ酸や加里等の不足養分の補給と保肥力の向上を図る。また、石灰質資材やアルカリ資材の施用により、酸性矯正を図る。

- ・ケイ酸質資材や加里を含む資材、腐植酸やゼオライト等の粘土鉱物を含む資材の施用
- ・土壤診断に基づいた石灰質資材やアルカリ分を含む土壤改良資材の施用

表 県内水田土壌の目標達成地点率

項目	土壌区分			目標値 (mg/100g)	目標達成 地点率
有効態 ケイ酸	沖積			25	30%
	洪積	リン酸	1000未満	30	25%
		吸収係数	1000～1500	40	50%
		(mg/100g)	1500以上	55	20%
交換性 加里	沖積(砂～壤質)			15	5%
	沖積(粘質)・洪積			20	44%

注) 農業研究所 定点調査9巡目(R1～4年)44地点

(2) 有機物の施用

有機物の施用により、土壌中の腐植の増加、保肥力の向上を図るとともに、加里等の不足養分を補給する(図1)。

- ・牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、発酵鶏ふん等の施用
- ・地力増進作物の作付け

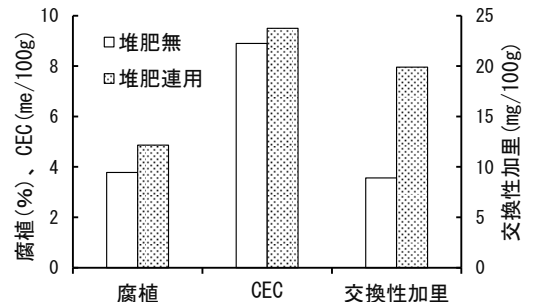


図1 牛ふん堆肥を連用したほ場の腐植、陽イオン交換容量(CEC)、交換性加里含量(H30 農業研究所)

注) 牛ふん堆肥1t/10aを7年間連用

(3) 秋耕の実施

秋耕による稲わらの腐熟促進により、翌年の田植え後のワキ(図2)を防ぎ、初期生育を良好にする。

- ・稲わらは有用な有機物であり、加里を多く含んでいる。水稻収穫後から気温の高い10月(ひこばえが出穂する前)までに深さ10cm程度で秋耕を行う。
- ・秋耕前に土壤改良資材や堆肥を施用
- ・秋耕後に排水溝の設置等によりほ場の乾きを促進し、稲わらやもみ殻の腐熟を図る(図3)。



図2 田植え後のワキの発生



図3 秋耕と排水溝の設置

(4) 深耕の実施と排水性の改善

- ・ロータリによる秋耕と春耕との2回掛けや、プラウ等の活用による深耕で、作土深15cm以上を確保する。
- ・大麦、大豆及び園芸作物等の作付予定のほ場では、前作物の収穫後速やかに額縁排水溝を設置するとともに、心土破碎の実施又は弾丸暗渠を施工する。

【秋耕の効果】

- ①土づくり(稲わら等の有機物の施用)
- ②翌年の田植え後のワキの発生防止
- ③ひこばえの発生防止
 - 斑点米カメムシ類の発生量の抑制
 - 翌年水稻作付時の漏生稲の発生防止
 - イノシシ・サル等の水田への侵入防止
- ④ニカメイチュウの発生密度の抑制